平新報

發行日毎月三回五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町二丁目二番地 平新報社
廣告料五號十二字詰一行一回五十錢 場所指定倍增
一部定價金十錢送料五厘

精神的總動員の日

玉川村 齋藤晃

山紫水明の地京都へ、賢所を奉じて御發輦遊ばされた、あの尊嚴な、あの莊麗な御鹵簿を拜して、日東帝國に生を亨けたるの光榮を思ふ時、無量の感謝と限りない感激となつて御即位當日に於ける陛下萬歲の聲は天地を搖したであらう。其の聲の力强く、其の態度の勇しく實に我こそは陛下の赤子なりとの國民的自覺はハツキリと面上に溢れて居つたのだ。

此れこそ根本心に有する國民性の發露なのである。實に國をあげての喜びの日十一月十日の午後三時こそは、八千萬の國民に課したる精神的總動員であつたのだ、今度の大典の有する意義も亦こゝにあるのだ。

見よ！世界にも誇る可き光榮を忘れて、我國体を害せんとするの輩が同胞中にあるではないか。其情父子の如しとも云ふ聖天子を忠良なる臣民は、軍隊と警官所を奉じて御發輦遊ばされ、あの莊麗の垣を通さなければ拜する事が出來ない狀態ではないか。政治の名にかくれて國家の面目をも傷くる人々のあるのを如何せん。

今や、我等は祖國愛の熱を燃やし、護國の劍を取つて立たなければならぬ、國家を擁護するは國民の義務なのだ。

千載一遇の好機に際し國民のすべてをあげて國体的自覺にめざめよと叫ぶものである。（十一、十六記）

御大典の秋

さかだち生

菊捧げ代々木の神に祈るなり
賤が家に君萬歲と咲く菊花
奉祝の灯燈に飾る町の中
高御座仰げ世界の聖神
山の色錦に飾る御大典
奉祝の二字を心にきざみつけ
土下座して拜む眼に涙あり
天地も君萬歲にゆらぐなり

ヴイタミンとは何ぞ

吾人必ず知らねばならぬ生命素

湯本町 片岡鎌三郎

忽ち知る可き災難を知らぬ者こそ不憫なり。

千里の長堤も、蟻の一穴から云ふ、現世復雜、限りなき世に立ち、世路の艱難甲は脂肪に溶解せるもの、ほ堪へ、優勝の生活を、續けねばならぬ、吾人は常に人生の危路に立ち、右すれば極樂。左すれば地獄。其の刹那の考慮が、幸となり不幸となる。吾人は其何れを取らんか位の、覺悟なくてはならぬ。一寸した迂濶の爲め、取返しのつかぬ生命を、無茶苦茶にし、自ら進んで紅蓮地獄に、阿鼻叫喚するは暗愚も亦甚たしい自衛位のこと、必ず知らねばならぬ。況や日常三度の食事は、吾人活動の源泉だ昔は蛋白質。脂肪。含水炭素。鹽類。水の五要素は、食物の全成分とせられたが之れだけでは、如何に巧妙に配合しても動物の生命保養老院、寄宿舍、兵營、戰時籠城、孤兒院、船乘、商店員等に起る病氣である。其の病類から逆に見て。（ヴイタミン）を四類に區別されたのである。

今吾人が日常必ず知らねばならぬ、生命に係るか、不慾しがる、過飲の害が來て青色便、顆粒便、嘔吐をする、營養增々惡となる。茲に（ヴイタミン）（エー）類の欠乏症として、眼の結膜乾燥症、角膜乾燥症、次て角膜軟化症と來たら、危險此上なしで、風眼が一晝夜乎一生後十ヶ月頃は搾て捨てる位だ、十ヶ月前後から不足が初まる故子供は初めマ、〳〵を覺える、之れは自然の要求であるから重湯、牛乳、鰹節の煮汁、おぢや、にんじんの黃味を磨り味にして味を逃したら、醫者の罪惡である。

食事は、吾人活動の源泉だ撰擇する、一種の食物のみ昔は蛋白質。脂肪。含水炭素。鹽類。水の五要素は、食物の全成分とせられたが之れだけでは、如何に巧妙に配合しても動物の生命保養老院、寄宿舍、兵營、戰

ビスケット等結構だ、若し之等混食を忘れると、乳を飲みつゝ、營養不足の飢餓狀態で、顏色が蒼白になる俗に蟲が强いなど云はれるも此の種屬であるから、肝油、鰻、八ッ目鰻、干海苔海草類、貝類等を與ふるが良い其の（ヴイタミン）（エー）が化學的にも、理學的にも不可分であるが、一つの生命素である。

ヴイタミン（ビー）

昔脚氣は風土病と云ふ、青魚屬の中毒だ、一種の微菌（今尚主張する者もある）飲料水だ、白米病だと論議されたが今日は大体『ヴイタミン』（ビー）欠乏症と云はれる。野菜殊にキャベツ、干海苔、玉葱、米糠等に含まる故、脚氣の食物は（ビー）含有物として一日夏蜜柑三個つゝ、糠の煎汁（强く、重湯等で育てると此病を起す多く高熱で煮たものを、餐ふ時に起るから、何か高熱との關係があると氣付かれた、夫は高熱の爲め玄米、食麥、小豆、一般野菜食が良い。昔からの習慣で、產前產後に青物食は子供が青色便となるとか、血の道に惡いとか之れは惡習だ、姙婦は非常に營養消耗し、個体抵抗力を減弱し、時肝油を與へれば、奏効し、

カルチーム分も不足するか早く氣付て（オレンジ）を與ふれば、奏効神の如し若し一度蟲を下す、卵が殘る。其の卵が虫になり、次の卵を生まぬ前。即二週間目に如何なる藥も無い、之の後更に蟲下をやるのが最善の方法で、年二回もやれば澤山だけれ共そう中々簡單には行かない、肝臟へ巢を作れば必ず死ぬ。早く氣付かなければ必ず治ると云ふ不思議なる迄二週間がるから、一度蟲を下す、卵が殘る。其の卵が虫になり、次の卵を生まぬ前。即二週間目に如何なる藥も無い、之の後更に蟲下をやるのが最善の方法で、年二回もやれば澤山だけれ共そう中々簡單には行かない、肝臟へ巢を作れば必ず死ぬ。早く氣付かなければ必ず治ると云ふ不思議なる迄二週間がるから、一度蟲を下す、卵が殘る。其の卵が虫になり、次の卵を生まぬ前。即二週間目に如何なる藥も無い、之の後更に蟲下をやるのが最善の方法で、年二回もやれば澤山だけれ共そう中々簡單には行かない、肝臟へ巢を作れば必ず死ぬ。早く氣付かなければ必ず治ると云ふ不思議なる迄二週間がるから、一度蟲を下す、卵が殘る。其の卵が虫になり、次の卵

滿洲の概括的觀察（四）

在京城 湯原亮夫

一、白玉山納骨祠

旅順驛前は僅一幅の道路を隔てゝ直に山形を爲して居る之れを白玉山と云ふ海拔四百八尺とか山上には旅順要塞戰に參加し名譽の戰死を遂げたる陸海軍將卒二萬二千七百十九名の英靈を合祭、二龍山、松樹山鐵道線路西方最北に偃めて見える祠しあり之れを白玉山納骨祠と云ふ石造の祠殿あり其下に遺骨を保存し置き石殿左右には皆て東鶏冠山西砲に登ゆる老鐵山老虎尾半島の要塞戰に於ける戰歿者の英靈を慰め其遺烈を後世千載に傳へんが爲特に發起建設せられたるものなりと云ふ、砲臺型臺の中に竪四尺横七尺二寸五分の表忠塔祀の額面がある銅板にて造られ東鄕乃木兩將軍の共選に成り鹽谷時敏氏之れを書すと云ふ、之の塔は工費三千萬圓約二箇年の月日を重ね明治四十三年十一月十二日珊加農砲四門其他三十九門竣工式を擧行せるものなりと云ふ、而して塔上には電燈の裝置あり夜間は遠く十數里の距離より尙善く之を認め得べく渤海灣口出入の船舶に利益する處大なるものがあるとか、此地よりは海草類、貝類等を與ふるが良い其の（ヴイタミン）（エー）が化學的にも、理學的にも不可分であるが、一つの生命素である。

ヴイタミン（ビー）

昔脚氣は風土病と云ふ、青魚屬の中毒だ、一種の微菌（今尚主張する者もある）飲料水だ、白米病だと論議されたが今日は大体『ヴイタミン』（ビー）欠乏症と云はれる。野菜殊にキャベツ、干海苔、玉葱、米糠等に含まる故、脚氣の食物は（ビー）含有物として一日夏蜜柑三個つゝ、糠の煎汁（强く、重湯等で育てると此病を起す多く高熱で煮たものを、餐ふ時に起るから、何か高熱との關係があると氣付かれた、夫は高熱の爲め玄米、食麥、小豆、一般野菜食が良い。昔からの習慣で、產前產後に青物食は子供が青色便となるとか、血の道に惡いとか之れは惡習だ、姙婦は非常に營養消耗し、個体抵抗力を減弱し、

(1)ヴイタミン（エー）の欠乏症

生後一年頃、離乳期と云ふ其頃子供は母乳のみでは生育が出來ない、元來母乳は一晝夜四合か五合位だ、此の量は生後三四ヶ月の子供には餘るけれ共、十ヶ月の子供には不足だから三四ヶ月頃は搾て捨てる位だ、十ヶ月前後から不足が初まる故子供は初めマ、〳〵を覺える、之れは自然の要求であるから重湯、牛乳、鰹節の煮汁、おぢや、にんじんの黃味を磨り味にして味を逃したら、醫者の罪惡である。

食事は、吾人活動の源泉だ撰擇する、一種の食物のみ昔は蛋白質。脂肪。含水炭素。鹽類。水の五要素は、食物の全成分とせられたが之れだけでは、如何に巧妙に配合しても動物の生命保養老院、寄宿舍、兵營、戰

精神的欠陷の恐ろしさよ

日の丸の旗に輝く裏長屋
予算から落ちて陣笠蹈ませず
脫線の夜警にライオンれむられず

日光生

突如として石城經濟界第二の大波紋が起つたのだ。

人々は何れも、しまつたの一言を發するのみで何等成すところを知らぬのだ。整理の名の下にあの鐵扉を閉すとは何たる悲慘ぞや。

あゝ、吾人の恐る可きは物質に非ずして精神の惡化にあるのだ、さなきだに不安の社會は益々そのドン底に引きづられて行くのではなからうか。

國民のすべては奉祝の誠意に燃えて報國の奮鬪につかんとする時、此の大鐵槌を落したるの暴舉は國家をも國民をも忘れたるの行爲として、その罪輕からざるものあるではないか、

然れども經濟の行き詰りとなつた時、やがて精神の欲求と化するであらう、物質萬能で行く時は何處迄行つてもその不安は底止する時がないのだ、只その不安をして安定せしむるものは精神の力あるのみである。

今日かくの如きに至れる原因も亦實に精神的欠陷の結果と云はなければならぬ、それは銀行當事者も預金者も、齎しく國民としての自覺を忘れたるが故である、自己は獨立せる自已にして他人の關する所に非ずとの謬想が、遂に爆發してすべてをして苦難の淵に立たしめたのだ。

人々よ！徒らに物質の不安をのみ逐ふ勿れ、此の機に於て精神的準備として、國民的自覺運動を起す可し然して非國民的人間を排除す可らず。（十一、二記）

東鶏冠山北砲臺

（四）

此砲臺は各戰跡中當時を忍ぶ唯一の好材料を現存して居る、樣に見られた、北方一帶は平地を爲し僅かに丘陵を爲して居る其地の防備を施したものである、砲臺は永久的建造であつて壕の內面は悉くペトンにて窮窟を造り大小三十餘門の砲を備へ壕內は殆んど室內に於けると同樣の設備がなされ破せられ土地に埋るやも知れず不安の念に居たまらず前方より穴を掘り我軍に迫り兩軍地中に在に向ひ陸下の萬歲を三唱し來よう旅順一帶の戰局に重大なる意義を齎したのは此砲臺の陷落である。

日四國の歩兵第二十二聯隊を負ひ大隊殆んど全滅の悲死力を盡して突擊し遂に其境に陷りたる地、故に一名吉永少佐は胸部貫通の重傷を負ひ大隊殆んど全滅の悲せしめらるゝの有樣多大の擊隊たる權藤大隊の過半と十二月十五日之の砲臺掩蔽に其力餘り强大に過ぎ我突るコンドラチエンコ將軍は信賴し期待し居たる有名な

發以上の發砲を爲し二十一吉永少佐は胸部貫通の重傷は影を見せず防禦物の中より銃口のみ出して猛射即死

午後二時大爆破を爲したる

理化學研究所製 吸入用酸素・酸素吸入器

優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ

平町四丁目 藥劑師 關內榮助 關內藥舗 電話四〇番

植田町 片岡醫院 院長慈惠醫學士 片岡章 電話一〇七番

平町南町 電話一二九番 ×光線科 与田耳鼻科醫院

平町田町 高久病院 電話五一三番

內科、小兒科、皮泉科 藤沼醫院 平町紺屋町 電話五〇七番

不思議な滋強靈液 まむしのエキス

本酒を用ひて適切に靈能の分る人々

養命酒は酒にして酒に非ず藥餌用として御婦人にも用ひ易く强力なる榮養素は惡疫を豫防し萬病を撃退する眞に健康の好伴侶なり榮養を貴ぶ人は勿論殊に

結核素質者○胃腸病○神經衰弱○精力減退○貧血性○不眠症○病後衰弱○婦人病ヒステリー○勉强又は激務に疲れ易き人○健康者朝夕の一杯元氣旺盛其他慢性諸病に惱み醫藥に効なき方は論より證據先づ一瓶を試み其眞價を知り御愛飲あらん事を御薦めいたします

▼大瓶 五八〇瓦入 金貳圓
▼中瓶 四〇〇瓦入 金壹圓五拾錢
▲四季の御進物用又は病家の御見舞品として最も好適で御座います

平町五丁目 代理店 山野邊藥局 藥劑師 山野邊東次郎

大嘗祭の良き日

いとも嚴肅裡に行はれた 平町拾年以上勤續店員徒弟表彰

本社の御大典記念事業

本社の御大典記念事業たる平町拾年以上勤續店員徒弟表彰式は大嘗祭の吉日去る十四日午後二時より元石城郡役所會議室に於て各店員徒弟表彰者店主、一般有志に參室の下にいとも嚴肅裡に擧行された。先つ別項掲載司會者の審査報告を兼ねた開式の辭に次いで、表彰狀及び記念品は大森勇氏主となり、柏原眞吾、渡邊太次郎、鈴木長三郎、山田盤麿の諸委員より授與され、直ちに左の人々の祝辭演說に移る。

一、平消防組頭井上茂作氏
一、磐中校長　唐土齊治氏
一、平町四丁目新妻文吾氏
一、夏井如來寺鈴木積善氏
一、前玉川村青年團長　齋藤晃氏
一、平町青年團長　馬目武之助氏
一、平旅館組合長酒井清氏
一、吉田五平氏
『代讀酒清井氏』
一、縣社會課長よりの祝電披露『渡邊太次郎氏』
一、答辭　店主側　猪狩庄平氏　店員惣代　小野金治郎氏

右閉式後餘興として根本毅一氏の落語あり談笑裡に散會した。後刻當日種々斡旋の勞をとられた委員其他は料亭松本に於て晩餐を共にした、紙上略儀ながら花輪を贈られ式場を飾り下された左の人々に謝意を表す。

一、山野邊東次郎氏
一、磐城新報社　高木喬氏
一、磐城之實業社　大和田與平氏

尚ほ多忙中に拘はらず精く本事業を逐行せしめ下された顧問、審査委員、各店主有志及び當日參集をなし下された諸彦に對し深謝してやまざるものである。

前號發表百二十七名以外の勤續者

姓名	勤續年數
◆左官酒井兼作	廿一ヶ年
鈴木磯八	一二
大和田清治	
◆理髮業新妻德之助	一〇
石川新喜	
◆江戸商會谷島音次郎	一六
富安峰吉	
◆大正活版所	一七
綾内傳	
◆岡田牛乳店	三〇
神山傳次	
◆益子屋	一七
增淵キヲ	
◆梅原商店	一三
水野兵藏	
太田久藏	二〇
◆薄葉已之松	一三
佐藤長治	
◆柏屋高野三郎助	一七
本多潔	

以上百參拾八名十四日表彰ずみ以下審査中逐つて追彰す

◆鶴屋旅館	一八
館内安治	
◆本間綿蒲團店	一七
大河原タミ子	
◆伊藤彌吉商店	一四
木下秀吉	
◆釜屋商店	一四
直井壽山	
大沼タケヨ	一四
◆卜印伊藤彌兵衛	一一
渡邊政治	
◆飯田書店	一二
鳥海久助	
◆劇場聚樂館	三一
白石鐵太郎	

表彰式當日店主來賓役員の主なる列席者は左の如く

平消防組頭井上茂作、平警察署長猪狩清、磐城中學校長唐土齋治、平刑務所長磐中遠藤平太、仝橋本芳太郎、平青年團長馬目武之助仝副團長多田井笑次郎、在軍平分會長山崎清三、平町議柏原眞吾、仝大森勇、磐崎村鈴木道治、鹿島村々議江尻寅治郎、玉川村村上龜之助、仝齋藤晃、高久村箱崎淺吉、夏井村鈴木積善、平町山野邊東次郎、諸橋元三郎、酒井清、關内正一、山田盤麿、鈴木邦三郎、山野邊義政、蛭田利光、高木喬、鈴木長三郎、井上貞治郎、根本毅一、草野七五三之助、阿部治作、岡田千藏、青天目增藏、山崎德次郎、遠藤市松、岡田長太郎、三森己代松、等各店主有志其他

壇上の人は主從關係を說く鈴木積善師

意義あり表彰式の盛況

鈴木箭山氏の藝術の冴ゑ

御大典祝賀當時の平町（西村屋藥舗通り）

審査報告兼擧式の辭

山野邊庄吉

生等國民世を擧げて壽ぎ祭る御大典殊に本日大嘗祭の良き日に當り此處に各有志諸賢の御臨席を辱うし精勵なる諸君の表彰をなし得るは本社の最も會心とする所であります。本平新報社は創刊三年有半此の曠古の御大典に會し、何か記念事業を奉じたいと私考し居りし所年來の懸案たる勤續店員表彰が最も意義深きものと信じ本社にしては重荷であるが萬難を排して決行する事となし、過般本紙上に發表し引いて、數回に亘りてチラシ折込等をなしそれが主旨の徹底宣傳をなし一方町役場、區長、店主有志に依頼し極力一人の漏れなからんため全力をあげて調査、勿論方法は主人の申告に俟つ事となしまして主人の申告を信じ審査は只勤續年限通算に相違ありや否やを調査せるに過ぎません、即ち、

一、平町の商店たる事
一、拾年以上たる事

但し滿拾年にあらず、例へば大正八年十二月に入店せるも本年迄に通算拾年になる……又一店主人勤務ならば途中やむなく退店するも前後加ひて拾年以上となれば加算としたる事、以上の定條から申告を俟つて調査をなし去る八日六十七商店中百二十七名の審査を審査會にかけ表彰の承認をうけ續いて昨日拾壹名の申告をうけたのであります。

贈呈の記念品メタルは、銀製にして日月を表徴し左近の櫻、右近の橘を現はしのであります。要するに先程述べました通り主人が本位で主人の意をくんだのであります。本社は極力調査に當りましたが此の表彰は多少漏れた勤續者あるものと推量する故當分追彰する事として居りますから該當者は申し込んで欲しいのであります。

かくの如く本朝緊急再び審査會を開き此處に百卅八名を表彰する事になつたので遠く市松、岡田長太郎、三森己代松、等各店主有志其他

あります事を開會の辭に代へ審査の經過を報告する次第であります。

共存共榮、持ちつ持たれつ。その。蘊奥を極め。或に傳へよ。余輩。歡喜の餘り。冗言を陳じて。是を祝す。

共に善進し行くはこれ處は。之を。社會百般の事物世の最たるもので一身につに適用して。以て。世益を くす事は一家のためとなり廣め。更に。操行を慎み。引いて町村、社會、國家に節義忠孝を重んじ。德行を奉公する事となるのであり具へ。相。全うして。今日ます、せんいつながら本社の光榮を。修身に保育せんが此處にこの表彰をなしたことを。是望み。或は。退事は新聞紙の使命てふ自他きて。父祖の家業を襲く者啓發、破邪顯正の一部をなあらん。其の志す所は。各したに過ぎません、どうか自。異ると雖も。庶幾はく精勵なる、勤勉なる諸君は尚ほより良く主人のため自己のため奮勵努力、地方商工業、思想界の善導につくされ一般の模範となられてこの表彰をして意義あらしめん事を切望してやまぬ次第であります。

× ×

祝詞

萬峯錦を飾るの節。曠古の御大典を奉祝し。寔に。これ。千載一遇の好期に會す。時。菊花しきりに香る。今十四日。平新報社は。此の。曠古の御堯季に流れ而かも思想界に漂ふ一抹の暗翳は稍もすれば我國特有の國民的精神に對し、或は微嶽を與へんとする。有志諸君の寵招を不肖は。有志諸君の寵招を蒙り。本日。この。盛會に列するの榮を得。一言以て諸君に告ぐ。古語に曰く。遠きに往くは必ず邇きより。高きに登るは。必ず低きより。すと。人生の勤勉努力に於ける。亦。是れと同じ。余は。諸君が。多年蚤雪の功を積み。國家須要の業を修めて。昔日の春秋も。昨日今日と。いつしか夢の間に過ぎ去り。克く。其の成績を擧げたるを喜ぶ又。宣しく。自ら。其の責任の。重。且つ。大なるを恐れて。既に成るに怠ることあるべからず。或は。益々。力を攻究に致して。以し。本日の。其會を。無窮に。歡喜の餘り。冗言を陳じて。是を祝す。

祝詞

今日の榮譽は永く社會教化の一助となすべし

吉田五平

世は正に、誠歡誠喜國を擧げて曠古の大典を奉祝し天壤の無彊と聖壽の萬藏とを祈願して止まざるの秋に當り平新報社は之れが記念事業として徒弟店員の表彰を企て而かも愼重審査の結果多數選拔の諸氏に對し本日茲に表彰式を擧行せらる。誠に欣快に堪へざる所なり惟ふに近時、世道人心漸くに接するの時吾人は高敬虔の念湧然として躍進するを禁じ得ざるなり、希くは自重自愛益々勤勉努力以て今日に至りしは實に全國的模範にして又以て本町の誇りと稱することを得て止まざるなり。

今日かち得たる榮譽は更に永く社會教化の一助と爲し邦家の爲め一層の奮勵を惜まざらんことを特に切望す。

本日此の式を擧ぐるに當り以て今回の表彰の如きは最も其機宜を得たる絶好の企てにして吾輩の感激措く能はざる所なりとす、而かも表彰者中には二十年三十年の永き間終始一日の如くひ一身一家の隆昌を祈願し以て本日の御厚志と御信賴に添ひ度いと思ひます一同に代り厚く御禮を申上げますと共に何卒一層の御後援を謹而御願ひ致します。

昭和三年十一月十四日

山崎活版所内
惣代　小野金治郎

× ×

答辭

主人代表　猪狩庄平

左は主人側代表鶴屋洋品店主猪狩庄平氏の答辭の概要である『文責在記者』御祝ひ申上げ多悅に滿つる甚だ潛越でありますが。私は平町商工業者の主人側を代表し御禮の御挨拶を申上げます。此曠古の御大典を祝福し。記念すべく平新報社は我々商工業者の店員並に徒弟の精勤者所謂ゆう〳〵自適し。以て自他共榮に專念せるものであります。是は少しく我平町商工業者の誇り得る美點であります。

聯か不辭を述べまして御禮申上げます。

茲に於て我々は平新報社の今回の意義ある御壯擧に對し常に其人格を認め其忠實。勤勞を愛て。主從の間は相愛し相敬し以て協力同心一意其責務向上に沒頭せるものであります。近時應々耳にしまして。惡化。動搖。なぞは。ものであります。

御自愛と國家觀念を基として御健筆を御ふるい下さいまして一段の御躍進あらんことを祈る次第であります。

御禮の御挨拶を申上げます。

左は主人側代表鶴屋洋品店主猪狩庄平氏の答辭の概要である『文責在記者』御祝ひ申上げ多悅に滿つる甚だ潛越でありますが。私は平町商工業者の主人側を代表し御禮の御挨拶を申上げます。此曠古の御大典を祝福し。記念すべく平新報社は我々商工業者の店員並に徒弟の精勤者所謂ゆう〳〵自適し。以て自他共榮に專念せるものであります。是は少しく我平町商工業者の誇り得る美點であります。

聯か不辭を述べまして御禮申上げます。

茲に於て我々は平新報社の今回の意義ある御壯擧に對し常に其人格を認め其忠實。勤勞を愛て。主從の間は相愛し相敬し以て協力同心一意其責務向上に沒頭せるものであります。近時應々耳にしまして。惡化。動搖。なぞは。ものであります。

御自愛と國家觀念を基として御健筆を御ふるい下さいまして一段の御躍進あらんことを祈る次第であります。

答辭

今上陛下御即位の大禮を擧げさせられ吾等國民赤誠を捧げて慶賀する秋に當り終始一貫破邪顯正の大業に精進する平新報社が奉祝記念として私共店員徒弟に對し盛大なる勤續表彰の儀を御計畫下さいました。本日茲に多數名士御來臨を忝ふし御懇篤なる祝詞並に御教訓を賜はりました事は私共の最も光榮とする所であります。

して寔に有難く感謝致します。是れ偏に日常親切に熱心御指導下さる主人を始め各位の深甚なる御愛顧の賜ものであります。

御座いますよく拾年一日と申ますが回顧すれば永年の間幾多の辛酸勞苦も啻々私共の多大の修養となり貴重なる經驗を積みし上に商工業に尤も大切なる信用を藏きました實に信用は無限の資本であります。故に今後身体の强健と過去の体驗とを以てしたなら如何なる難事業も成功の彼岸に達し得るの自信を有して居ります。

更に一段の發奮努力を致しまして誠心誠意義勇公に奉じ上は皇恩の鴻大に報ひ一身一家の隆昌を祈願し以て本日の御厚志と御信賴に添ひ度いと思ひます一同に代り厚く御禮を申上げますと共に何卒一層の御後援を謹而御願ひ致します。

昭和三年十一月十四日

山崎活版所内
惣代　小野金治郎

× ×

表彰餘談

◆本社の勤續店員表彰式當日藤市商店主遠藤市松氏は病体に拘はらず車にて式場に臨んで居つた、かくの如き情義あつてこそ初めて一家が榮ゑ商店繁盛といふべきである。

◆甚だ遺憾とせしは當日は多忙たらんも何事にも顏を出す伏見町長や他記者諸氏が見えぬ事であつた結、斯業に精勵向上を計り勿論藝妓の手踊りの如く興樂的のものでない事は事實であるとは××翁の談である。

◆平運輸會社に林子之吉氏外二十名の該當者ありしがこれは合同により勤續と認めぬと重役の意見に從つて表彰を見合したが此處に只姓名を發表して見る。

林子之吉	卅二ヶ年
氏田竹治	一一
野崎丹治	一三
福田源太郎	二九
吉田兵吉	二一
氏家富由	一〇
丹野藤吉	二六
村田幸吉	二〇
佐藤六三郎	二〇
飯村鐵之助	二六
小谷松莊太郎	二七
西牧齊	一〇
渡邊源次郎	一一
加藤與四郎	一六
鈴木德松	二四
吉田諄	一〇
鈴木榮太郎	一一
吉村惟道	一二
酒井龍之進	一五
前田岩吉	一四
吉田植男	

◆今回の催しに際し當日御持參又は御屆け下すつた左の人々からの好意を甘受します。

渡邊政五郎、鹽澤彌、永山小平、馬目武之助、白土陶器店、蛭田利光、關内正一、武田コウ、大村山崎活版所、新田目善次郎、遠藤市松、猪狩庄平佐竹智明。各位

話耳目

◆御大典奉祝に壽ぎつゝあつた去る十九日俄然平銀行は全日より向ふ一ヶ月間十二月十八日迄某有力銀行と合併のため休業を發表した、某有力銀行とは水戸市に本店を有する常磐銀行との事である、純資產主義で合併との事なれば內容に於て比較的堅實であつた平銀行としては合併可能であらふと見られて居る、何が故に休業せねばならなかつたか、曰く磐銀休業以來緩慢なる取附からであつて四ッ倉銀行支拂停止からその度が深刻となつた事は事實である、筆者は此際其筋の注意もありあり進んで書かぬ事にするが、磐銀の如く社內不正行爲ありしための休業にあらざるを信ずるものである、勿論不正貸出もある如くであるが重役の使込みはなきもの丶如くであつて磐銀のそれとは全然異にするを衆人これ認めて居り磐銀常時の如く預金者大會を開き檢束騷ぎを起す模樣もなく一日も早く合併の成行を待ち居る樣であるが若し平銀にして磐銀のそれの如く預金者に迷惑をかけ不正行爲を發見せば斷々乎として難詰するに躊躇せぬ兎に角、一日も早く合併の上人心を安定にさしたいものである。

◆御大典奉祝も目出度すんで平色街は迎新の準備に急がしく紅裙迎正月のクバリに目をパチ〳〵從前の客は放さぬべく新しく出さうな客を物色して居る、株主連は此の際十二月二十日頃の先附小切手でも切つて安心さして置く事だ、それも磐銀や平銀では駄目、七十七に限るかな。◆それはそれとして山形家の千代龍は中村は壽へと去りしは去る二十日の事壽には玉太郎『靜香』も居る筈さぞ平の話しでもてる事であらふて。

◆某銀の××某はあまり身分相應の遊び振り今にあらためぬと八幡小路行となるテ◆二葉家の照葉の眞劍振りは大したもの但し親からうけた体に自ら傷つける事は少し度が過ぎますねー。

◆福清のとん子去る日五丁目の山野邊藥局前に差しかゝる頃帶から出た鼻紙が時の風にあふられて飛び上る後からボテふりの女二三追ひかけ、ねいさん紙が〳〵ならぬ內容に於て比較的どん子姐さんふりかいり時ならぬ顏に紅葉して吉田家へと突進！これが午後三時に見られて居る、何が故に頃五丁目にもものいふ花が咲くとは此の事。

平疊商組合

二拾年以上勤續者に記念品表彰

明治二十八年創立に成る平疊製造同業組合にては御大典を記念すべく左の二拾年以上勤續同業者に對し表彰狀と餞時計を贈れりといふ。

小野里吉、綠川八百次郎、根本幸次郎、平田忠吾、小野豐藏、石里新吉、綠川留吉、吉田庄太郎、佐藤勝造片寄專次郎、佐藤德藏『以上拾一名』因みに同組合は現組合員四十三名、現役員は左の如くで事每に一致團結し榮譽といふべきである。

『甚だ遺憾とせしは當日は多忙たらんも何事にも顏を出す伏見町長や他記者諸氏が見えぬ事であつた結、斯業に精勵向上を計り勿論藝妓の手踊りの如く興樂的のものでない事は事實であるとは××翁の談である。』

組合長小野里吉、副組合長綠川留吉、會計岡田政次郎外七名。

株式會社 平銀行

昭和三年十一月十九日

當行儀地方金融界の現狀に鑑み取引者各位の安全を期せんが爲め常磐銀行と合併を計劃し其準備のため本日より十二月十八日迄臨時休業致候